教育目標　すくすく　ぐんぐん　にこにこ

令和６年２月１日
第５４９号
北区立じゅうじょうなかはら幼稚園

園長　髙沢　ゆみか

客観的に自分を見る力

先日、年長さくら組が生活発表会を行い、『うらしまたろう』の劇を披露しました。当日、会が始まる前はだいぶ緊張している様子も見受けられたさくら組の子どもたちでしたが、劇が始まると少しずつ緊張もほぐれ、一人一人が堂々とした姿を見せてくれました。これまでになかった言葉や動きをとっさに足したり、相手のアドリブにさらにアドリブで応じたりしながら自分たちで進める姿も見られ、２年間の幼稚園生活で積み重ねてきた力、一人一人の個性、それを互いに受け入れ合う学級の子どもたち同士のつながり、子どもたちと担任との絆を感じ、とてもうれしく、頼もしく思っています。

自分たちで『うらしまたろう』の劇をしたい、おうちの方やちゅうりっぷ組に見てもらいたい、と取り組み始めた発表会でしたが、最初の頃は、照れから舞台の上で無意識に体をそわそわと動かしたり、衣装をしきりに触りながら台詞を言ったりする姿もありました。そうせずにいられない心情を受け止めつつ、教師には、年長児として「見てもらう」という学級共通の目的を意識して動いてほしいという願いもありました。しかし、無意識な動きは誰でも気付きにくいものです。そこで教師は、子どもたちの様子を撮影し、劇が終わった後に見る機会をつくりました。自分たちの劇をワイワイ楽しそうに見ていたさくら組ですが、そのうちに無意識にしていた自分の動きに気付いて驚いたり、「こうしたほうがもっとよくなる」という声が聞こえたりしてきました。すると翌日から、どの子も見違えるように自分の動きを意識して、役になりきった動きに集中しようとするようになったのです。動きをさらに工夫する子、その場で言いたい台詞を加える子もいます。自分の姿を客観的に見て、自分がイメージする姿との違いを捉え、「もっとこうしたらなりたい姿に近付ける」と考えて修正し、日に日にめきめきと変わっていく姿、そして変わっていく自分たちを実感し、よくなっていく楽しさを味わい、「もっと、もっとよくなろう」と取り組むさくら組の姿に、子どもたちのもつ力と可能性の大きさを改めて感じました。

客観的に自分を見るまなざしは、人との関わりを通して育まれていきます。様々な人と関わる中で、自分を振り返るときの価値観が形成されたり「こうなりたい」という憧れの気持ちをもったりします。また、相手の反応によって自分の言動や態度を振り返ることもあります。生活発表会では保護者の皆様にも、豊かな関わりを通して互いに育ち合ってきたさくら組の姿をご覧いただけたことと思います。

さて、次はちゅうりっぷ組の番です。さくら組の劇を楽しく見せてもらい、「次は自分たちが見てもらいたい！」と張り切っているかわいらしいちゅうりっぷ組の取り組みのドラマが今からとても楽しみです。

今月の指導のねらい

＜ちゅうりっぷ組＞

- 学級の友達と一緒に劇遊びに取り組み、その中で伸び伸びと自分を表すことを楽しむ。
- 友達との遊びの中で、やり取りをしながら関わる楽しさを感じ、相手の思いに気持ちを向けていく。

＜さくら組＞

- 自分なりの目的に向かって工夫したり、最後まで取り組んだりして、達成感や満足感を味わう。
- 友達と関わる中で、互いの思いや考えを受け入れ合い、友達とのつながりを深めていく。